



平成 26 年度女性ネットワーク委員会テーマ
『 人とのつながりを深め、親も子も育ちあおう！ 』

女性ネットワーク委員会では、親子の信頼関係づくりと自立へ導く親の在り方について 2 年間活動を展開してきました。そうした中で見えてきたのは、親が自分自身や自分の子育てに自信がなく、不安や悩みを感じ、子どもに伝えるべきことを伝えられずにいる親の姿でした。近年は多くの家庭が共働きとなり、仕事と家庭の両立をしながら子育ての担い手となっている私たち母親の負担は多く、心に余裕を持ち続けることが難しい状況です。また、核家族化が進み地域社会との関係が希薄になり、心を開いて相談する相手を見つけにくい状況があります。そして、家族・親戚や親同士の人間関係に悩んだり、不安な気持ちが先立つと、人とかかわりや学校・地域でのつながりを避けてしまう傾向があります。そして、このような親の心の持ち方やふるまいは、やがて子どもの成長にも大きな影響を与えるでしょう。

***豊かな心を育むために**

近年、子どもたちの生活は学校と家庭が中心になり、近隣の人や親戚の人など、さまざまな人とのつながりが薄れ、人とかかわる経験が不足しています。そのため、友だちとの関係でも失敗を恐れ、人と深くかかわろうとしない傾向がみられます。しかし、顔を合わせたリアルなつながりを面倒に感じながらも、子どもたちは、友だちや家族に言えないことや表現できないことをネット上のつながりの中に求めていくという現状があります。本来子どもは、家庭の中から少しずつ学校や社会に出て人間関係を広げていく中で、さまざまな失敗や成功体験を積み重ねながら、自分や人を大切にできる豊かな心が培われていくと考えます。子どものたくましく生きていく力を育むためにも、私たち親自身がさまざまな人とのつながりや結びつきの中で自己研鑽を重ねながら、自己肯定感を持ち、生き生きと生活していくことが大切だと考えます。

***親も子も育ちあうために**

子どもは常に親の姿を通してさまざまなことを学んでいきます。親が何を一番大切に考え、そして将来に夢や希望を持って生きているかどうか、子どもが将来生きていく自分の姿として映し出されるでしょう。特に私たち母親の中には、大切な家族や子どもの幸せを願い必死に努力をしても認められることもなく、さまざまな悩みや不安をひとりで抱えている人が多いのが現状です。しかしその反面、学校を通じた情報交換や、研修の場に足を運ぼうとせず、自分をとりまく様々な人とかかわりを避ける人が増えていることは、大きな問題です。ものの見方や考えの異なる相手と向き合う難しさもありますが、そうしたことを乗り越え、人とのつながりを大切にしながら親同士が人として育ちあい、高めあうためにどのような工夫や配慮が必要なのかを考えます。

***平成 26 年度女性ネットワーク委員会活動指針**

今年度は、さまざまな人とのつながりやかかわりを大切にする中で、親自身の在り方や生き方についてあらためて考え、親も子も自己肯定感を獲得しながら、たがいに育ちあい成長していくための学びや研修を深め、活動を展開していきます。